

防災担当行政職員向け特別講演

「まちぐるみで取り組む防災・減災」報告書

- 1 日時：平成 28 年 4 月 20 日 10 時 30 分～12 時
- 2 場所：奈良県産業会館(大和高田市幸町) 5 階 大会議室
- 3 主催：奈良県(安全・安心まちづくり推進課)
- 4 協力：NPO 法人都市災害に備える技術者の会
NPO 法人奈良県防災士会
- 5 講師：前大阪府泉南市長 向井通彦氏(NPO 法人都市災害に備える技術者の会顧問)
- 6 演題：「まちぐるみでとりくむ防災・減災」
- 7 対象者：奈良県内自治体の防災担当行政職員・消防職員・警察職員
及び防災行政に関心のある方
- 8 出席者：(行政職員) 18 名 (一般市民) 12 名
- 9 その他：奈良テレビ放送、中和新聞社の取材有り

【はじめに】

全国の自治体では地域防災計画の全面改訂を行うなど防災・減災の取組を行っているが、行政だけでは限界があり、幅広く市民全体、まち全体で取り組む必要があるとの観点から、泉南市の取り組みについて紹介していただいた。市長時代の数々の取り組みと経験を交えての講演は大いに参考となるものでした。

【講師略歴】

1941 年大阪市生まれ。1961 年から大阪市役所勤務で橋梁専門技術職として中之島に架かる橋や天王寺バイパスなど多数の橋梁事業に関わったのちに、1973 年泉南市役所勤務となり、土木課長、事業部長、市長公室長、助役を経て、1994 年から 2014 年まで、泉南市長を 5 期 20 年間務める。この間、泉州市長会会長、大阪府市長会会長、近畿市長会会長、全国市長会副会長を歴任した。平成 27 年秋の叙勲で旭日中綬章を受章。

現在は、日本技術士会会員、NPO 法人都市災害に備える技術者の会顧問、泉南市防災技術者の会副会長などの立場で、防災・減災に係る活動を続けている。

【講演概要】

① 東日本大震災への大阪府市長会及び泉南市の取り組み

講演の冒頭、東日本大震災において大阪府市長会や泉南市の取り組み状況について紹介があった。関西広域連合で大阪府は岩手県を支援するとして、発災当日の3月11日夜に消防職員が万博公園に集合し災害派遣の先陣として現地に入り、その後水道支援として泉南市も給水車と職員を派遣した。向井氏は市長会会長として、4月19日に岩手県に入り大槌町や陸前高田市に対する支援のニーズ調査を行い、それを基に大阪府内市町村職員派遣スキームを作った。ニーズの高かった看護師、保健師は、女性が多いことを考慮して1か月単位でローテーションして派遣するなど、支援者側の事情も考慮したものとした。また、修学旅行をあきらめていた岩手県内の中学生100名について、市町村や大阪府の負担を決めて費用をねん出し、大阪に招待した事例の紹介もあった。

② 本題「まちぐるみで取り組む防災・減災」

(1) 泉南市地域防災計画の改定など行政の取り組み

地域防災計画は、従来の風水害中心から地震災害対策編への充実を図った。その際委員会形式で検討を行い、委員は行政、関電、NTT、自治会など各種団体の代表者に入ってもらったが、ほぼ男性であったため、婦人会会長、女性消防団会長に参画してもらい、女性の視点も踏まえての改定とした。

ハード面では、大阪府の3防災拠点のうち、泉南市が横山ノック知事時代にいち早く協力したことから、南部防災拠点が最も早く整備され、平時は体育館としても活用している。

職員災害初動マニュアルも府内で最速に作り、避難所近くの職員に鍵を預け、迅速な避難所開設ができるような体制とした。

こどもの権利基本条例をいち早く策定し、防災も位置づけ、幼児から防災意識を醸成するとともに、子どもの利益を優先する仕組みを構築している。

(2) 市民団体の取り組み

向井氏が中心となり「泉南市防災技術者の会」が設立され、現市長も顧問で入っており、市と二人三脚で、防災シンポジウムなど啓発活動を行っている。特に、子供たちへの啓発を意識して、「小学生を対象とした防災出前講座」「女性消防団と連携した幼児向けの紙芝居」「子供向けの防災クイズ」などを実施している。このことが、個々の自主防災組織設立から、自主防災組織連絡協議会の設立へとつながり、各種訓練も実施されている。

イオンモール泉南とは、大阪府も入り防災協定を締結し、一次避難所にも位置づけイオンの全面的な協力のもと各種団体が協力して、防災訓練や防災フェアなどを開催している。

このような各段階での連携の広がりが、「泉南市防災まちづくり協議会」の結成につながり、「まちぐるみで取り組む防災・減災」活動につながっている。

最後に、活動の継続の必要性を強調され、「ロングスパンで継続していくことが中々難しい面もある。そのためにも子ども向けに対応していくことが必要。

まちぐるみで防災・減災に努めるということで、普段は忘れがちになることを繰り返し行うことが大切である。」として講演を終えられた。

【質疑応答】

活発な質疑応答が行われましたが、向井講師の応答要旨は次の通りです。

- ・ペットをつれている人の避難所での扱いについては、屋内に一緒に入れると騒音や臭いの問題、なかには噛みついたりすることも考えられるので原則として分離する方がよいと考えている。
- ・発災時の議会議員の行動に対してはあまり期待していない。議員が加わると職員も言いにくいし遠慮してしまう。また、指示系統が混乱する可能性がある。一方、議員の持つ情報収集力には期待しているし有難い。
- ・避難所設営については、初期対応として職員初動マニュアルを策定し、避難所近くの職員に鍵を持たせ、震度5以上の地震が発生したらただちに開設するようにしている。あとは対策本部立ち上げ→避難所班(教育委員会を中心に)に引き継ぐようにしている。
- ・エコノミー症候群を住民に周知する方法については、訓練の時などを通じて啓発する。市町村の保険衛生担当や保健所を通じて啓発する。
- ・防災担当職員の適性人数、規模については、泉南市は人口6.5万人規模で課長以下7~8人だ。消防団の事務局も抱えているので、多忙でハードだ。都市整備部の職員と一体となってフォローしている。

質疑応答が終わり、最後に申し伝えたいこととして、『危機管理にはトップの姿勢が大切。強いリーダーシップが求められる。奈良県の場合は、津波はないが土砂崩れや山火事が考えられるので、平時から対応を考えておくことが大切』という言葉で締めくくられた。



講演を聴く参加者



質問する参加者と答える講師